

書評

スポーツ医学を志す君たちへ

武藤芳照 (著)

四六判・296頁

定価：2,750円(本体2,500円+税10%)

南江堂刊、2021年



[評者] 金岡恒治 早稲田大学スポーツ科学学術院

武藤芳照先生の100冊目の著作である本書は、“正しく普遍の理念を実践するべく社会で行動し続けている人”である武藤先生の一つの節目であり、本書にはこれまで先生が実践されてきたことの総てが整然とまとめられている。本書を評することは先生の人生を評することにも等しく、私にはおこがましく感じるとともに、光栄に感じている。

自分がスポーツ医学を志した研修医のときから一貫して武藤先生から学んできたことは、“スポーツの世界に医学を応用してスポーツ人の健康を守る、スポーツ現場の安全を守る、スポーツの健全性を守る”こと。さらに“医学の世界にスポーツを応用して、運動器の機能低下や障害を予防する”ことで、スポーツ界と医学界の両方から認められるようにならなくてはな

らない、ということであった。これはまさにスポーツ医学がめざすところであり、私を含め多くの関係者が実践に勤しんでいる。

またスポーツ医学は研究室で得た知見を論文掲載するだけでは完結せず、多くの人が実践し、社会の役に立って初めてその役割を果たす。卓越した教育者である武藤先生は、難しいことをできるだけ簡単に、多くの人にわかりやすく伝えることの大切さをいつも強調されてきた。普通の人には一生に一度できるかどうかの大きな事業をいくつも成し遂げてきた経緯が本書で詳細に語られており、これからスポーツ医学を実践していくわれわれにとっては具体的なお手本である。

とかく損傷した臓器にしか興味がいかない多くの臨床医と違って、武藤先生は広く社会全体を見渡

しスポーツ医学を実践されてきた。先生が育ててきた日本整形外科学会スポーツ医学会は紆余曲折を経て再編されようとしているが、全人的視野で人と社会を診てきた先生の理念が引き継がれていくことであらう。

武藤先生はスポーツ界の多くの課題を解決してきたが、まだまだ多くの問題があり、アマチュアスポーツの祭典であったあこがれの五輪はいまやスポーツの商業化・エンターテインメント化の中でさまざまな問題を露呈し、コロナパンデミック下での東京五輪開催は物議を醸している。武藤先生の健全な精神がスポーツ医学を志すわれわれに宿って引き継がれていくことを願う。

2021年7月22日 五輪開幕前夜の東京アクアティクスセンターにて